

1 教科について

国語

昨年度の課題

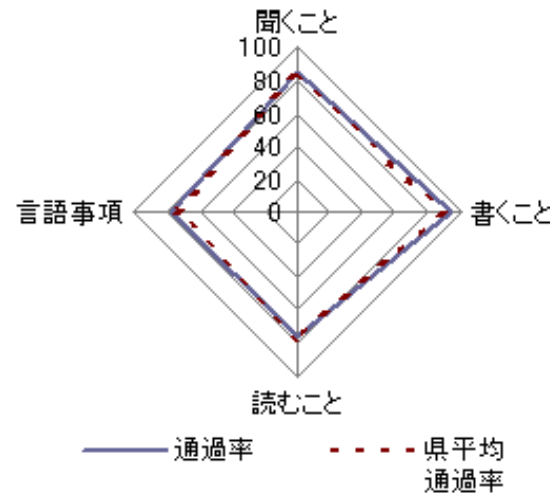
- ① 聞く目的を明確にしながらか話を聞くことができない。また自分に必要な観点を意識しながら話を聞くことができにくい。
- ② 文章全体を見通した内容の理解ができておらず、文脈に応じた接続詞を選択することができにくい。

昨年度の課題を受けて
具体的に取組んだ事項

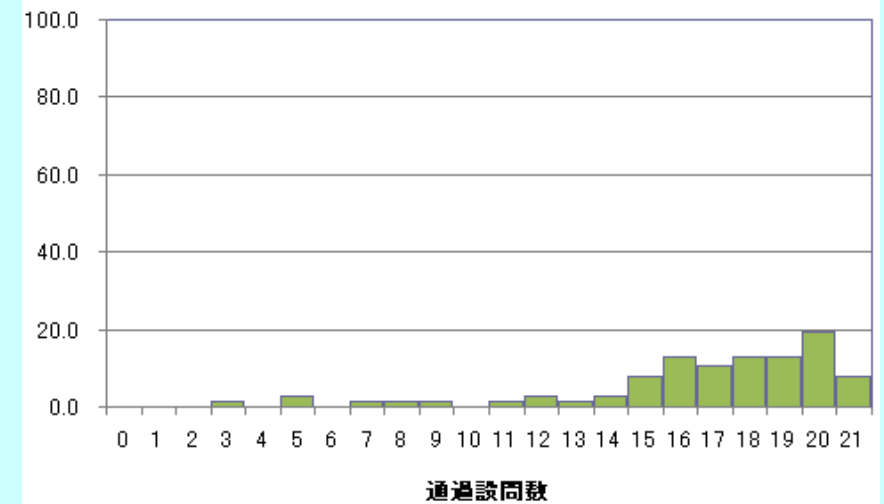
- ① 「要点の聞き取り」に対しては、必要な観点を意識して話を聞き取る習慣をつける指導を行う。また、メモを取りながら話を聞く活動を増やし、目的に応じて聞き取った内容を活用させる指導を行う。
- ② 「適切な接続語の選択」に対しては、説明文の授業の際に段落ごとに要約させることを通して、段落相互の関係に気付かせたり、本校自作の「ことばのステップアップテスト」を継続して行うことを通して、接続詞の理解を深めたりする。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **80.1%** 県平均 **78.5%**

領域別平均通過率(国語)



通過設問数ごとの児童割合(国語)



重点課題 ◎ : 「基礎・基本」定着状況調査
◇ : 全国学力・学習状況調査

- ◎ 目的意識を持って話を聞くことができない。必要な観点を意識して、確実にメモを取りながら、整理して聞くことができにくい。
- ◎ 国語辞典の言葉の配列の理解が十分定着していない。文脈に沿った語彙の意味を類推し、適切な意味を把握しないまま、辞典を引いて終わっている。引いた語句の活用ができていない。
- ◎ 説明的文章の段落相互の関係を正しく読み取れない。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 「要点の聞き取り」については、必要な観点を意識して、確実にメモを取りながら話を聞き取る習慣を身に付ける指導を引き続き行う。また、立場をかえてメモをもとに話すなど、目的に応じて聞き取った内容を活用させる指導を行う。
- ② 語句を精選して、辞典を引く練習を繰り返し、有用感を持たせる。
- ③ 段落の要点をキーワードを落とさずにまとめさせたり、接続語に着目させたりしながら、段落相互の関係を表や図に表せるようにする。

来年度の目標値

- 教科全体の通過率において、県平均を達成する。
- どの領域の通過率においても、県平均を達成する。

指導方法等の改善計画について

算数

昨年度の課題

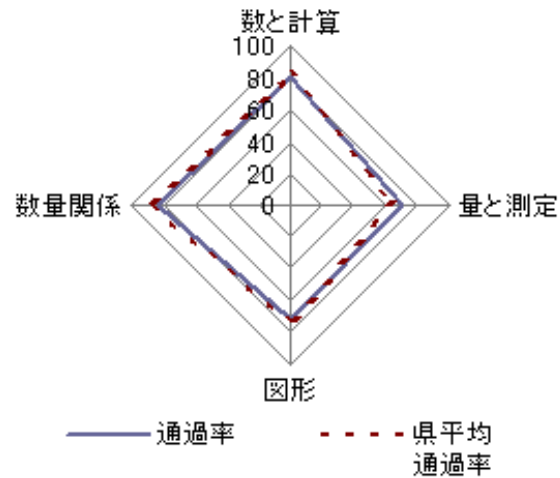
- ① 図形の求積公式や定理を文章から理解したり言葉で説明したりすることができにくい
- ② 伴って変わる二量の間を式で表すことができない。

昨年度の課題を受けて 具体的に取り組んだ事項

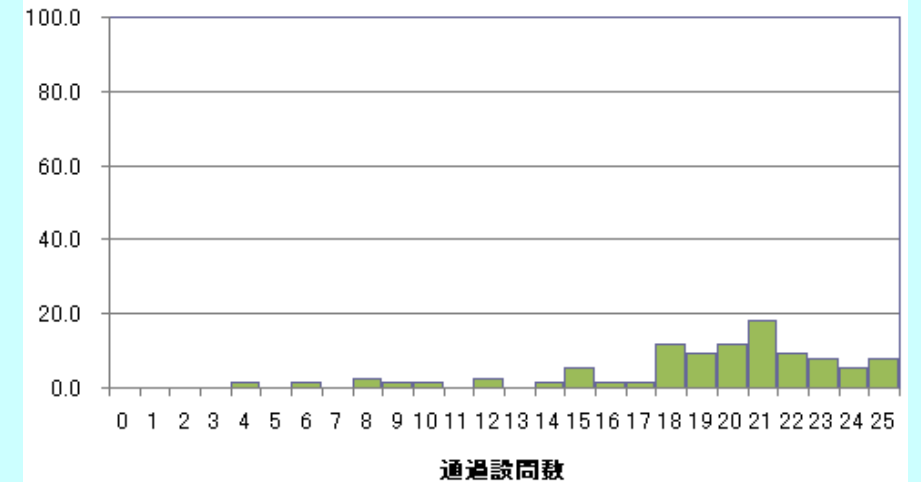
- ① 算数科の授業において、自分の考えや問題の解き方を、児童が言葉で説明する場を設ける。
- ② 式を与え、条件をつけて作問させるなど、問題場面を主体的に捉えられる課題の出し方をする。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 77.0% 県平均 77.8%

領域別平均通過率(算数)



通過設問数ごとの児童割合(算数)



重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査 ◇:全国学力・学習状況調査

- ◎ 分数は、1をもとにした単位分数が基本単位になっていることや仮分数や帯分数の意味の理解が十分でない。
- ◎ 分度器を使って、正しく角を測定したり、複合図形の面積を筋道立てて導き出したりすることができない。
- ◎ 正方形の定義を活用しての問題解決や、与えられた条件に従っての直角三角形の作図ができない。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

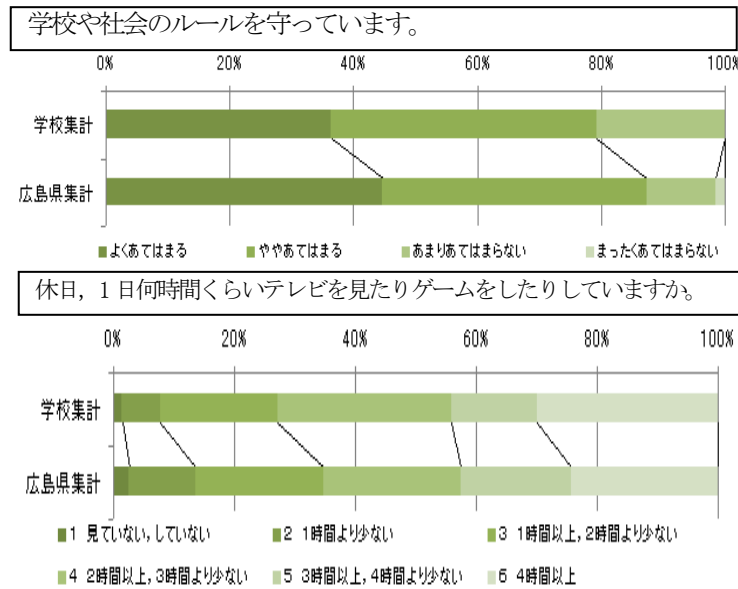
- ① 問題で問われていることを注意深く正しく読み取り、問いに対応した答えを求められるように指導する。授業の中で、誤答を生かし、「なぜ、それが誤っているのか」を言葉で説明させるようにする。
- ② 真分数、仮分数、帯分数のいろいろな大きさを、絵やテープ図、数直線で表すなどして、言葉で説明させるようにする。
- ③ いろいろな角の測定を通して、分度器の正しい使い方を継続して指導する。また、複合図形の面積の求め方を多様に考えさせ、図に補助線や確定できる数値を記入しながら、筋道立てて説明させるようにする。
- ④ 図形の定義を活用して問題を解決する練習を継続して行わせる。

来年度の目標値

- 教科全体の通過率において、県平均を達成する。
- どの領域の通過率においても、県平均を達成する。

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，児童質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：学校質問紙，児童質問紙）

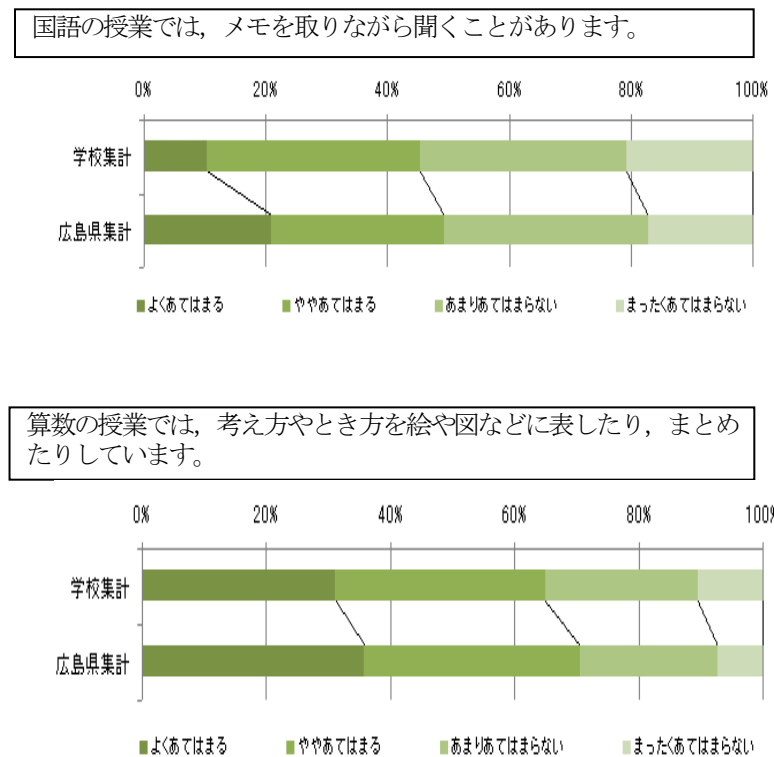
(1) 生活・学習



改善したい点 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	今後の具体的な取組の内容
◎ ものごとを解決する方法を多様に考えることに慣れていない。 ◎ 「学校や社会のルールを守っている」については、意識の低い児童がほぼ20%いる。 ◎ 休日のテレビ視聴やゲーム遊びの時間が長い。4時間以上の児童がほぼ30%いる。	<ul style="list-style-type: none"> 各教科や生活の中で、ものごとの多様な解決方法を考え、表現させる。 学習や生活の中で、掃除の取組み等、規範意識を高める指導を継続して行う。 家庭学習の調査をし、休日の学習内容の実態をつかみ、課題を把握する。休日を含む「生活リズムカード」を実施し、好ましい生活習慣の定着と学習内容の充実をはかる。

来年度の目標値	
	<ul style="list-style-type: none"> 「学校や社会のルールを守っている」という児童を85%以上にする。 休日のテレビ視聴やゲーム遊びが4時間の児童を25%以下にする。

(2) 教科



	児童の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	◎ 国語の授業で、メモを取りながら話を聞く機会がまだ少ない。また、話を聞かせる際に、これから話される内容・項目について見通しをもたせ構造的にメモを取るよう指導していない。 ◎ 国語辞典を用いて意味調べを行う必要性を実感させていない。	<ul style="list-style-type: none"> 言語技術として再話などに取り組み、構造的にメモが取れるように指導する。また、目的に合わせたメモの取り方を指導し、意見文の交流会やディベート等の実践場面で活用させるようにする。 辞書を引く目的を理解させるとともに、効率的な引き方に習熟させ、日常的に活用させる。
算数	◎ 問題について、考え方や解き方を多様な表現方法で表したり、説明したりする機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 多様な意見が出やすいように掲示物の工夫をする。またノートへ自分や友達の考えを整理し、まとめる時間を保証する。

来年度の目標値	
	<ul style="list-style-type: none"> 「国語の授業で、メモを取りながら聞くことがある」という児童の割合を50%以上にする。 「算数の授業では、考え方やとき方を絵や図などに表したり、まとめたりしている」という児童の割合を70%にする。

指導改善のための実施スケジュール

